

2016年2月9日

各位

慶應義塾大学メディアセンター
所長 赤木 完爾

KEIO 大学図書館国際フォーラム
「研究支援と図書館 ～研究サイクルを取り巻く「混沌」に図書館はどう向き合うか～」
の開催について（ご案内）

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、標記フォーラムを下記のとおり開催致しますので、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

1. テーマ： 研究支援と図書館 ～研究サイクルを取り巻く「混沌」に図書館はどう向き合うか～

—開催趣旨—

研究成果の質と量がランキング等の大学の評価に直結するようになり、研究力強化への図書館としての積極的な貢献が重要な課題であるという意識が定着しつつあります。この課題への取り組みは欧米において進んでいる感がありますが、日本国内でも、文部科学省の有識者会議において研究データの利活用への図書館の積極的な関与の必要性が言及されるなど、図書館が研究支援で果たす新たな役割への要請が高まってきています。

そのような状況の下、研究サイクルに目を向けると、一連の過程を支援する有用なツールやプラットフォームが日々出現し群雄割拠の様相を呈していますが、多くの図書館では、この変化に関与していくと言ってもどこからどう取り組んだらよいものか、手をこまねいているのが実情ではないかと思えます。

今フォーラムでは、まず、この課題についての OCLC Research での最新の研究成果をベースに、「研究支援と図書館」を取り巻く状況を概観します。次に、具体的な取り組みとして、今後の研究成果の管理・利活用に不可欠な要素である研究者 ID の代表格である「国際研究者識別子 ORCID」について、基本的な解説とともに研究の現場でどのように活用されているのか、図書館との接点をどう見出せるのか等について共有します。そしてこれら講演の内容を踏まえた上で、今後に向けての議論を行いたいと考えています。

今回の企画が、日本での「研究支援と図書館」の関わり方・スタンスを今後考えていく上での一助になればと思っています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2. 講師： コンスタンス・マルパス (Research Scientist, OCLC Research)
宮入暢子 (ORCID アジア・太平洋地区ディレクター)

3. 期 日： 2016年2月26日(金) 13:00 ～ 17:00

4. 会 場： 慶應義塾大学 三田キャンパス・北館ホール
アクセス：<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>
(ページ下部のキャンパスマップ中の1番の建物になります。)

5. 定 員： 定員 150 名 (先着) ※参加費は無料です。

6. 主 催： 慶應義塾大学メディアセンター (協力：OCLC Research Library Partnership)

7. プログラム :

- * 受付 12 : 30~13 : 00
- * ご挨拶・趣旨説明 13 : 00~13 : 10

* 基調講演	13 : 10~14 : 40
OCLC Research, Research Scientist	コンスタンス・マルパス
* 講演	14 : 40~15 : 25
ORCID アジア・太平洋地区ディレクター	宮入 暢子

- * 休憩 15 : 25~15 : 45

* 質疑応答・ディスカッション	15 : 45~16 : 50
OCLC Research, Research Scientist	コンスタンス・マルパス
ORCID アジア・太平洋地区ディレクター	宮入 暢子
(コーディネータ) 慶應義塾大学日吉メディアセンター事務長	市古 みどり

- * 閉会のご挨拶 16 : 50
- * 終了 17 : 00

※当日は日英による逐次通訳を行います。

※別紙(次頁)にて講師の紹介をしています。

■以下のサイトにも開催案内を掲載しております。追加情報は随時更新します。

<http://www.lib.keio.ac.jp/jp/forum/>

7. 参加申込み :

次の情報を記載いただき、以下のアドレスまでメールでお申込みください。

・氏名、ご所属、ご担当業務/役職等

※メールの件名は「フォーラム申込み」としてください。

お申込み先アドレス : forum-jimukyoku@lib.keio.ac.jp

事務局担当: 慶應義塾大学メディアセンター本部 関、白石
03-5427-1861(直通)

以 上

(別紙)

講師のご紹介

コンスタンス・マルパス氏 (Constance Malpas)

Research Scientist, OCLC Research



米国 OCLC の研究部門 OCLC Research において研究に従事。特に科学分野における知識形成、研究実践に関心が高く、これまで多くの研究成果を発表。近年では、mass digitization (蔵書の大規模デジタル化) と collective collection (複数図書館による共同コレクション構築) が研究トピックの中心であるが、昨年、研究活動の変容における図書館の関わりに焦点を当てた以下の研究成果を発表している。

“Stewardship of the Evolving Scholarly Record: From the Invisible Hand to Conscious Coordination” (2015)

<http://www.oclc.org/research/publications/2015/oclcresearch-esr-stewardship-2015.html>

宮入 暢子氏

ORCID アジア・太平洋地区ディレクター <http://orcid.org/0000-0002-3229-5662>



ORCID (<http://orcid.org>)のアジア・太平洋地区担当のディレクターとして、アジア全域における ORCID の普及活動に従事する。研究機関や学会、出版社、研究助成団体等と連携し、研究コミュニティにおける ORCID の活用を通じて広く学術コミュニケーションと情報マネジメントの向上と発展に努めている。ハワイ大学マノア校にて図書館情報学修士取得後、トムソン・ロイター・プロフェッショナル株式会社の学術情報部門の主任コンサルタント、ネイチャー・パブリッシング・グループのアジア担当コンサルタント/アナリストを経て、2015年7月より現職。

以上